

福澤全集の刊行 全集緒言の掲載

福澤全集は今度福澤先生の子孫の爲め又朋友の爲めを
圖りて今を去る三十八年前即ち萬延元年より明治二十
六年に至るまでの間に親しく筆を執りて著譯せられた
る許多の書籍を蒐集刊行するものにして之を讀めば何
人とも離れ不開國以來日本文明の淵源を詳にするを得
べし

未曾有の大著譯

福澤全集は無慮四千五百頁に達する大冊なり其中に收
めたる書籍は前後合して五十部、冊數百七冊にして每部
發行の數は十萬乃至二十萬に達したるもの多けれども
假に多寡平均して每部七萬部とすれば都數にて三百五
十萬部即ち七百四十九萬冊は日本人の目に觸れ西文移
植の大効を遂げたるものにして古來未曾有の大著譯と
云はざる可らず

福澤全集の緒言

全集刊行の企圖あると共に福澤先生は新に筆を染めて
當初先生が著譯に従事したる頃の時勢事情及び一部毎
に之を著譯したる所以の來歴を説明して巻頭に附する
等なり一篇通じて讀了すれば新舊變遷の波瀾に立たる
開國者の如何に大膽にして如何に効力ありしか鎖國固
陋に慣れたる國人の如何に開國者を通じて如何に其說
に耳を傾けたるか將た又先生が文を行き歸を擇ぶに如
何なる注意を爲したるか次第を追ふて漸く明かに開國
四十年來の奇蹟快絶なる舞臺は忽焉として讀者の眼前
に現はる可し

十一月一日より

即ち全集緒言は之を掲げば全集一都の緒言にして之を
併れば西文移植の活歴史なり新日本文明の最も重要なる
時代の屬して最も興味あるものなれば本社は全集刊
行の前に當りて特に先生に請ひ來る十一月一日の紙上
より順次掲載して讀者の一覽に供せんとす

時事新報社

社説

信用組合の成 立と望む

農工銀行の設立委員は先頃來各府縣に於て任命せられ
昨今創業の準備中なれば遠からず開業の運に至るものと
ならん近年米價騰貴の爲めに地主を始め小作人の末輩
に至るまで意外の收入を得て生計に餘裕を生じ地方一
體に好景氣の模様なれば農工銀行が資本金を募集する
にも格別難産を煩はすに及ばず小額の株式を發行す
る以上は細民の餘財を吸收するに難からざる可し且つ
國庫より株式引受の資金を地方政府へ交付するの定め
なれば同行の資本金募集には差支り困難の事情なきが
如し地方の人々が今日農工銀行を設立せんとするは時
機の宜しきを得たるものと云ふ可し思ふに世人が農
工銀行の營業に重きを置くは同行が二十人以上の農工業
者に連帯責任にて無抵當貸付を爲し所謂對人信用の道
を開くが爲めならん一國の生産業に直接の關係ある
は中産以下の農工業者なれば是等は固より資産に乏
しし一員の身を以て其日の食に代ふるの有難なれば事
業の擴張に供す可き餘財なく左ればとて他より
借入れんとするも充分の抵當物なければとて他より
借入れんとするも大抵高利貸の類にして世間その高
利に賣立られ遂に先祖傳來の財を失ひ浮浪の民とな

りて他郷に流寓するもの少なからず地方に土地兼併の
風盛なるは主として小農業者に資金融通の機關具はら
ざるが爲めにして對人信用の道を開くは即ち斯る弊害
を防ぐ所以なり左れば農工銀行が連帯責任の無抵當貸
付を爲すは至極大切の事にして設立の目的を達するに
否かは要するに此規定の活用如何に在り若しも貸付の
方法にして宜しきを得ば地方の小農工業者は低利の資
本を得、農工業の改良發達に少なからざる効能あるふ
となりんと雖も然れども我國の實際に徴して今日直に
斯る効能を收め得べきや否や聊か掛念なきを得ず其次
第を述べんに無抵當の貸付は本來資産に乏しき小農工
業者を相手とするものなれば對物信用と異なり篤と債
務者の身上を取調べて果して貸付金を事業の改良に用
ふるや否や又之を用ふるの伎倆あるや否やを確めざる
可らず此邊の調査十分にして始めて無抵當貸付の効用
を見る可し然るに其調査たる抵當物の検査なきと異な
り非常に難澁にして容易に行届く可きに非ず左ればい
よ／＼開業の機に至て農工銀行が大に無抵當貸付を爲
して小農工業者に資金融通の道を開かんとならば先づ
銀行の下に完全なる信用組合を組織し銀行は一切の責
任を組合に負はしめて資金を貸付組合の手を経て更
に信用の確實なる組合員に貸付るの方法を求めざる可
らず信用組合ありては農工銀行の無抵當貸付も始め
て圓滑に行はるるものなれば我國の如く斯る組織の備は
らざる者に在ては無抵當貸付は却て農工銀行の營業に
困難を加ふるに至るやも知る可らず元來信用組合の目
的は一地方に於て信用の確實なる人々の間に資金の融
通を圓滑にするに在りて餘財ある者は組合に託して安
全の利殖を謀ると共に事業改良等の爲めに資本を要す
る者は之に就て出來得る限り低利長期の金を借入れ一
方には細民の貯蓄を奨励すると同時に他の一方には生
産業の發達を備す其効能は蓋し西洋諸國にては組合の
業務次第に發達して確實の財産を有し地方の公共事業
を補助するもの少なからざる由なればも本來組合員
のみにて直に完全の組織を見る能はず地方の有力者が
今日大に協力す可きは此一點にして事の順序より云へ
ば農工銀行を設立する前に先づ組合の成立を謀る可き
警なるに然るに只管銀行の設立にのみ奔走して其營業
が圓滑に行はるる所以の仕組に就ては毫も顧みざる所な
く甚しきは之を以て或は政治上の機關と爲さんとし又
は徒に資本金を過大にして多額の交付資金を得んとす
るが如き形跡あるは何ぞや此の如くんば對人信用の發
達を見る能はず無抵當貸付は一片の空文となりて或は
設立の目的を購するに至るなきを期すべからず從來
都會と地方との金融が融通せざるは夙に世人の認むる
所にして現に今日地方の人民が不時の收入を得れば得
るに隨て奢侈の用に供し見す／＼資本を空費するの弊
あり無算上も思ひべき事なれば信用組合の如き小額
の資金を吸收する機關を設けて不生産の消費を防ぎ資
本の増殖を計るは今日の急務にして此點より見るも地
方の人々は信用組合の成立に盡力し他日農工銀行と相
俟て小農工業者に資金を供し以て地方經濟の繁昌を謀
るの要務を肩負ふに我輩の敢て勸告する所なり

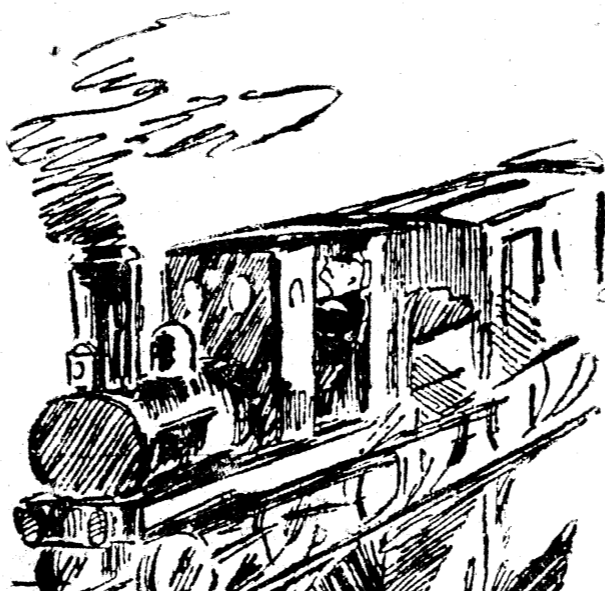
日本の運輸交通

事業の通弊 (十四)

官設民設を合して全國の鐵道一箇年の收入を計算すれ
ば乘客より得る所は一千三百三十三萬四千四百九十五圓
にして貨物より得る所は大小貨物及び郵便物を合して
六百三十六萬三千三百三十二圓なるが故に所謂人頭税の
利益は全く貨物の運賃に二倍せり是れ鐵道局を始めと
して各官社の營業が人頭税主義に傾ける結果にして從
來一般に行れたる通弊なればも此通弊の國家に對し
て有害なる其状態は恰も人民の足を縛りて其手のみを
動かすれば國の生産力増進す可しといふに異ならず是を
縛られて手のみ動かすか或は種々の生産には可なるべしと
雖も之を他へ運ぶふと能はざるを如何せん實に偏見の
甚しきものにして政府が最初此人頭税主義を以て鐵道

鐵道所見 (三)

汽車の編渡



を敷設したるより以來今日まで二十五五年の間官民とも
に鐵道は人を運ぶの利器として經營するが故に營業人
が收入の源とする所も只管人頭に依るを謀り無難
銀行には臨時汽車を出せども貨物の堆積には一向に顧
みせず曾て信州善光寺に開帳ありし時參詣の乘客は盛
んに鐵道の便利を賞讃したれども鐵道が參詣人へのみ
に注意したる結果、直江津と高崎とには貨物非常に堆積
し數噸の中にはモヤと爲りて停車場内の儘より手を
生じたる者ありと云ふ此の若し精査する計を下して
善光寺鐵道の上り高と貨物堆積の損害とを減たらんに
は甚だ妙なる統計を得たりしならん斯る例は獨り善光
寺のみならず東京の間、京大阪若くは神阪の間に於て
も常に居る所にして當局者は動もすれば貨物に對
する設備の不充分なるを以て議會協賛の嘆きに依ると
爲し決して自己の手を白状せざれども鐵道局二十五

年來の營業士
にのみならず
云ひ大阪若く
にある都會は
對する設備は
最も前號に
一切無責任
する所なく
て揚卸を爲
低き役吏に
なく一方に
を駭かしな
藉を極め居
亦之に倣ひ
るが如く心
送を等閑に

東京會場事務處
○東京會場事務處
○東京會場事務處

○東京會場事務處
○東京會場事務處
○東京會場事務處

○東京會場事務處
○東京會場事務處
○東京會場事務處

○東京會場事務處
○東京會場事務處
○東京會場事務處